

# 9月学習会は『3周年記念』ナノダ!! 第31回「資本論を読む会」は

日時：2021年9月28日（火）  
午後6時30分からオンラインで  
「第12章 分業と工場手工業」です。

（岩波文庫(二)272P）からです

第30回「資本論を読む会」は、遅れて参加の方も含めて12名で読み合わせ、討論をしました。しばらくぶりの参加者もあり、また林野の仲間が仕事にスズメバチに刺されてお休みーというビックリもありました。

どうか「第11章 協業」は終わらせて、第12章「第1節 工場手工業の二重の起源」に入りましたが、時間の関係で報告がメインになり、討論は次回に再びやることにしました。

資本論も、このあたりになると具体的な話が中心ですから、面倒な概念議論は少なくなりましたね。

恒例の自主懇親会の酒談義は、菅内閣の行方が中心でしたが、みんな総選挙の選対任務が入って来そうです。

次回もリモートで、開催時間は6時30分からです。終了後、自主参加の懇親会もやります。



◎3年前、2018年9月11日に第1回の「資本論を読む会」を始めましたので、次回の9月は3周年になりますが、特に祝宴などは企画しておりません。気軽に参加して下さい。

☆「資本論を読む会」の最初からの資料は下記ホームページでご覧になれます。

◎ <http://socialistho.cafe.cocacn.jp/> 「資本論を読む会」オープン・コーナーにあります。

別建ての「掲示板」にも第1回の報告記録などがありますよ。

レポーターから--anak

## 第11章 協業 p249-p271の要点

### (1)規定…協業とは

○比較的大きい労働者数が、同じ時間に、同じ空間で、同じ商品種類の生産のために、同じ資本家の指揮の下で働くことは、歴史的にも概念的にも、資本主義的生産の出発点をなす。

○多数の労働者を同時に使用することは、「一つの革命」を引き起こす。共同消費される生産手段…建物、倉庫等々。

### (2)結合労働日

○個別労働の(結合)…各段階が協業の結果として、労働対象がより急速に通過することがありうる。例一煉瓦積み作業

○労働対象の空間的関連によっても、すでに協業が必要とされる。例一土地の干拓、築堤、灌漑、運河や道路や鉄道の建設等々。

・労働の空間的作用範囲の拡大／空間的場面を縮小／多くの労働を僅少な時間に流動／競争心を刺激して活力を緊張させる  
／多数者の同種作業に連続性と多面性を／生産手段の共同使用による節約／個別労働に社会的平均労働の性格を与える…

### (3)協業の2条件—資本の「大いさ」と「指揮—監督という労働」

○(協業の条件1)より多くの資本支出を必要とする。資本の大いさに依存…不変資本の大いさ＝労働者の数。可変資本の大いさ

○(協業の条件2)労働に対する資本の指揮は、労働過程の遂行そのものための要件に、一つの現実的生産条件に発展する。

○(監督という労働)資本家は手労働から解放され、監視機能を、特別な種類の賃金労働者に＝資本の指揮の下に協働する労働者団。

### (4)資本主義的協業

○人類の文化の初期の協業…「生産諸条件の共有」と「共同体の臍帯」が資本主義的協業と区別される

・資本主義的協業が、協業の一つの特別な歴史的形として現れるのではなく、協業そのものが、資本主義的生産過程に特有な…ひとつの歴史的形態として現れるのである。

○単純な協業は、分業と機械装置とが重要な役割を演ずることのない大規模な生産諸部門においては、なおつねに主要な形態である。